

児童生徒の問題行動等は、学校教育の課題であるとともに家庭にも起因する大きな課題です。これまでの、家庭教育支援の取組は、奨励・援助を中心としたものでした。行政の手が届きにくかった家庭教育支援に、企業・大学・NPO等の専門的な教育力を導入することにより、より有効的な支援についてのプログラム開発を目指します。ここでは、家庭教育支援部会の会員団体のひとつ「渋谷ファンインピアサポート委員会」の取組を紹介します。

## 渋谷ファンインとは、

渋谷区内に広がる子どもの「居場所」です。平成11年に「地域で子どもを育てる」ことを目指して、地域の方々が中心になり「上原ファンイン」を誕生させました。現在、その輪が広がり、区内11か所を拠点に子どもたちを対象とした「居場所づくり」を行っています。

ファンインの活動を支えているのは、企業、自営業、主婦・若者たちと多彩で、特に、10代から20代の若者が、ユースパートナーとして「居場所」にやってくる子どもたちの相談や遊び相手としてかかわっています。

渋谷ファンインが、ピアサポート活動を行うようになったのは、ファンインの居場所に不登校の子どもたちが来るようになったことがきっかけです。平成13年度から、区で「子どもの心サポート事業」を開始し、この課題に対応することになりました。現在この事業のコーディネーターを担っている元養護教諭の佐々木さんは、「子どものこころのサポートや問題の解決を図るためには、早期に問題を発見し、早期に対応すること、また行政だけではなく、地域の団体や関係機関とのネットワークによる解決が重要」と言っています。

子どものこころのサポートを行うためには、専門的な知識の研修が必要であり、区の事業のスーパーバイザーである医師の協力を得て、6回シリーズの研修を3か年続け、25名ほどの「ピアサポーター」が登録されています。

また、心の問題を抱えた子どもたちにとって、“お兄さん、お姉さん”がピアサポーターとして対応することで、身近に感じ、閉ざした心を外に広げる効果も大きいようです。

サポートが必要である児童・生徒がいた場合、「子どもの心サポート事業」のコーディネーターが家庭と連絡を取り、派遣について説明し、了承が得られるとピアサポーターを派遣

「ファンイン」というのは、中国語で“歓迎”を意味しています。

することになります。

なお、ピアサポーターの派遣の際には、必ずコーディネーターは、派遣するピアサポーターと同行して学校へ行き、学校長以下、学校関係者に引き合わせをしたうえで、活動を開始します。このことにより、学校も安心して子どもたちのサポートを任せることができそうです。

## ピアサポーターとして活動している岩間さんにお話を伺いました



心の問題を抱える子どもへのサポートが決定すると、毎週1回(約2時間)子どもの家を訪問して、いろいろな話をしたり、一緒に遊んだりしています。最初はぎこちない子どももいますが、多くの子どもは、自分から話をしてくることが多いようです。特に心がけていることは、立ち直らせよう、学校復帰をさせようということではなく、子どもの話のひとつひとつに耳を傾けるようにしています。子ども自身が受け入れられていると感じたとき、子どもの気持ちの内側から外側へ向いてきます。子どもが変わってくると、家庭も変わってくることが多いようです。これまで多くの子どもたちにかかわってきましたが、子どもの問題は家庭の問題であり、悩みや不安を抱えている保護者をサポートすることも大切であると感じています。

今まで対応した子どもたちは、高校へ進学をしているなど、家に引きこもっている子どもはひとりもいません。子どもたちの様子を見てみると、私自身この活動に参加できてとてもよかったと思っています。

現在、5人の子どもを担当していますので、時間的に大変な面もありますが、私が行くことを皆楽しみに待っていてくれるので、つらいことはありません。

## 渋谷ファンイン事務局の相川さんは

ピアサポーターの取組の将来展望としては、保健所、子ども家庭支援センターなど関連機関と連携を図りながら、軽度発達障害の子どもたちやニートと呼ばれる若者にも対応できるよう、活動を充実させ、若者の自立支援の仕組づくりを進めて行きたいと考えています。

ピアサポーターの「ピア」とは、対等・仲間という意味で、子どもたちに対して指導・助言するといった上下の関係で接するのではなく、子どもの意思を尊重し、子どもと一緒に考え行動する視点で活動するものです。

